

2023年3月16日 全8頁

Indicators Update

2023年2月貿易統計

春節要因の剥落で輸出は増加したが物足りない結果に

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2023年2月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+6.5%（季節調整値では前月比+4.4%）となった。中国の春節明けの影響で上振れしたが、1-2月平均で見た中国向け輸出数量は2022年12月を割り込んでおり、全体としては物足りない印象だ。輸入金額は前年比+8.3%（季節調整値では前月比▲3.0%）と伸び率が急激に鈍化した。これを受け、貿易収支は▲8,977億円（季節調整値では▲1兆1,907億円）となった。
- 2月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+4.0%と4カ月ぶりに増加した。半導体不足の一段の緩和を背景に自動車輸出が好調となった。地域別に見ると、米国向け（同+1.7%）が増加したほか、アジア向け（同+4.3%）は中国向け（同+15.0%）の回復によって増加した。EU向け（同▲2.0%）は減少したものの、下げ止まりの兆しが見られる。
- 先行きの輸出数量は、追加利上げに伴う米国の景気減速を主因に減少基調を辿ったのち、中国経済の回復や供給制約の緩和を背景に増加傾向へ転じるとみている。足元では中国の個人消費が持ち直しつつある。また、半導体不足の緩和によって国内では自動車販売が加速している。海外で積み上がった受注残が消化されることで、自動車などに関しては輸出増が期待できる。

【貿易金額】春節要因を均して見た中国向け輸出は低調

2023年2月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+6.5%と24カ月連続で増加したが、コンセンサス（同+7.0%、Bloomberg調査）を小幅に下回った（**図表1**）。単月で見れば中国の春節明けの影響で上振れしたものの、1-2月平均で見た中国向け輸出数量は2022年12月を割り込んでおり（**図表2**）、全体としては物足りない印象だ。輸出金額を季節調整値で見ると、前月比+4.4%と4カ月ぶりに増加した。主因は輸出数量（大和総研による季節調整値）の増加であった（**図表3左**）。

輸入金額は前年比+8.3%と伸び率が急激に鈍化し、プラス幅は23カ月ぶりに1桁となった。品目別では石炭や液化天然ガス、原油及び粗油などの増加率が低下した。季節調整値では前月比▲3.0%と4カ月連続で減少した。輸入価格（大和総研による季節調整値）が前月の急落から反発した一方、輸入数量が大きく減少した（**図表3右**）。医薬品などが減少したほか、2月の平均気温が例年よりも高かったこともあってエネルギー品目の輸入数量が減少したとみられる。

これを受け、貿易収支は▲8,977億円と19カ月連続の赤字となった。また季節調整値では▲1兆1,907億円と前月から赤字幅が縮小した（**図表4**）。1-2月の季節調整値の平均は▲1兆5,070億円と、春節要因を均して見た赤字幅は2022年後半から縮小傾向にある。

図表1：貿易統計の概況

		2022年							2023年	
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
原系列 前年比 %	輸出金額	19.2	19.0	22.0	28.9	25.3	20.0	11.5	3.5	6.5
	コンセンサス									7.0
	DIRエコノミスト予想									8.3
	輸入金額	45.6	46.9	49.3	45.8	53.6	30.3	20.8	17.5	8.3
	輸出数量	▲1.5	▲1.9	▲1.1	3.8	▲0.3	▲3.6	▲7.0	▲10.9	▲7.9
	価格	21.1	21.4	23.4	24.2	25.7	24.4	19.9	16.1	15.6
	輸入数量	1.3	2.3	2.8	▲1.6	5.7	▲4.7	▲6.4	▲2.3	▲7.8
季節 調整値 前月比 %	価格	43.7	43.7	45.3	48.2	45.4	36.7	29.0	20.3	17.4
	貿易収支(億円)	▲13,750	▲14,219	▲27,904	▲20,992	▲21,715	▲20,319	▲14,586	▲34,986	▲8,977
	輸出金額	3.5	1.9	▲1.0	2.9	1.4	▲1.6	▲3.2	▲6.1	4.4
	数量	1.5	0.3	▲3.2	0.2	0.9	▲2.0	▲5.3	▲2.9	4.0
	価格	2.0	1.6	2.2	2.7	0.5	0.4	2.2	▲3.3	0.4
	輸入金額	3.9	3.5	0.8	▲0.1	3.8	▲5.3	▲3.1	▲5.1	▲3.0
	数量	0.5	▲1.2	0.1	▲3.1	3.8	▲6.6	▲1.1	4.8	▲7.8
価格	3.4	4.8	0.8	3.0	▲0.0	1.5	▲2.0	▲9.4	5.2	
	貿易収支(億円)	▲19,081	▲21,085	▲22,866	▲20,266	▲23,160	▲18,730	▲18,320	▲18,233	▲11,907
	税関長公示レート	130.35	136.05	135.08	139.81	145.09	146.43	137.90	132.08	130.38

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

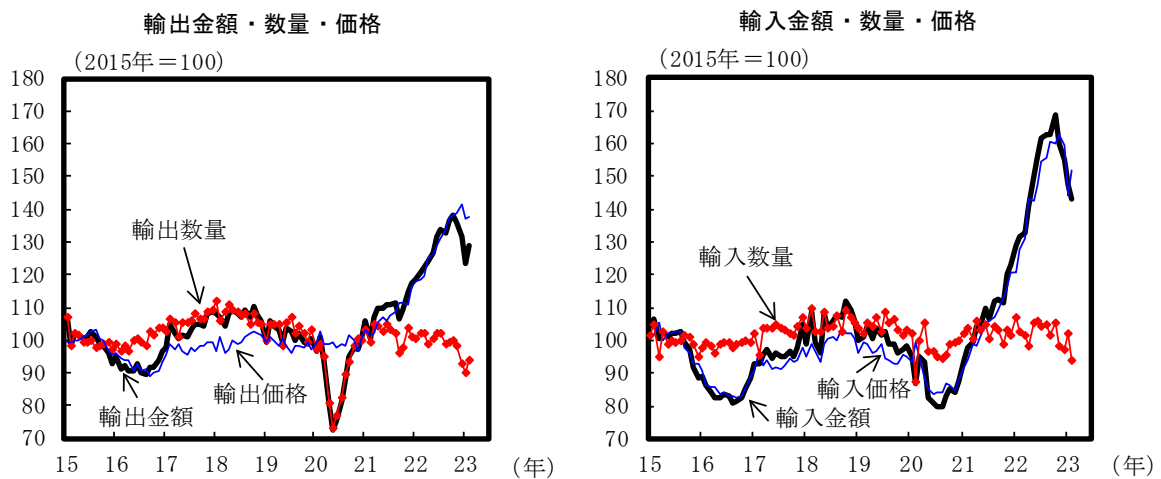
(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

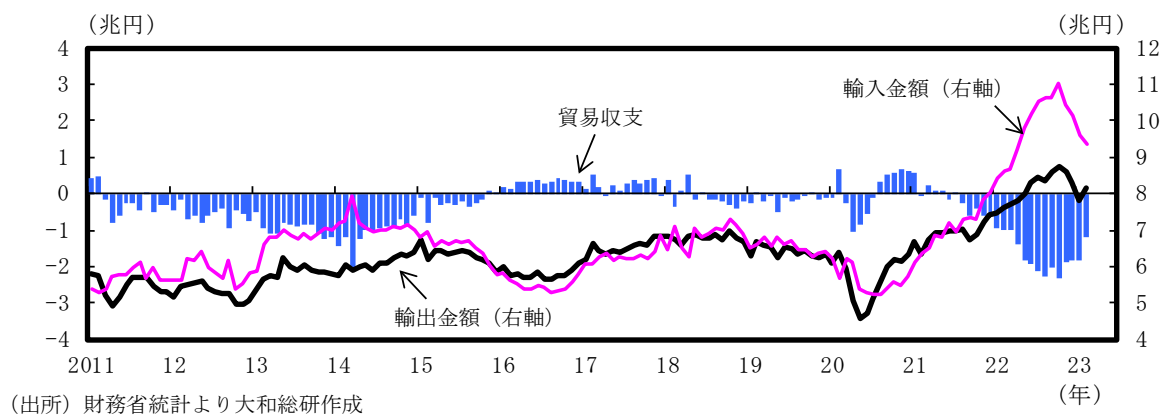
図表 2 : 中国向け輸出数量の1-2月平均（前年12月対比）の推移



図表 3 : 輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



図表 4 : 輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



【輸出数量】半導体不足が一段と緩和し自動車輸出が増加

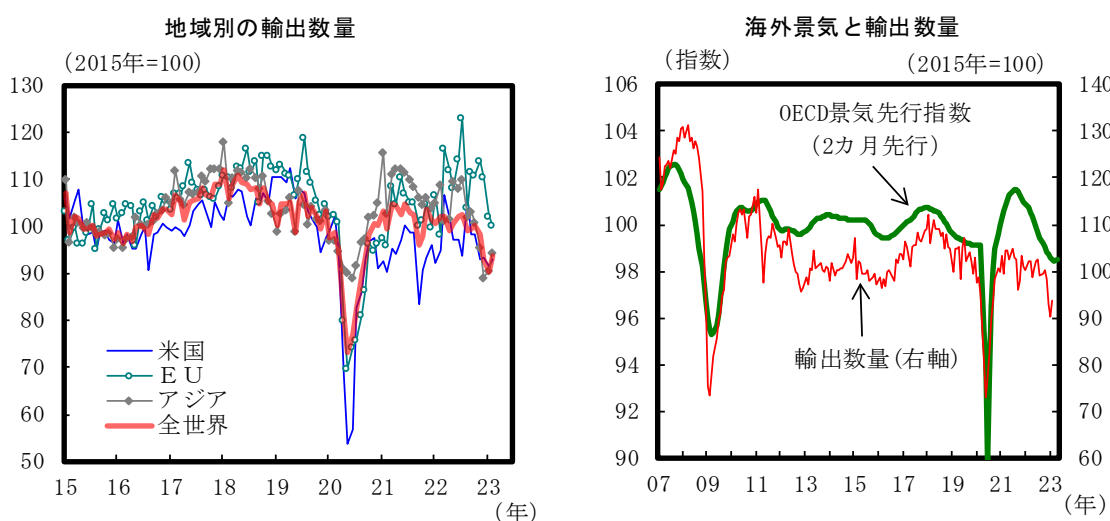
2月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+4.0%と4カ月ぶりに増加した。半導体不足の一段の緩和を背景に自動車輸出が好調であった。地域別に見ると、米国向け（同+1.7%）やアジア向け（同+4.3%）が増加した。アジア向けの増加は中国向け（同+15.0%）の回復によるところが大きい。ただし、中国向けを1-2月平均で見ると2022年12月比▲5.1%となり、回復ペースは心許ない。EU向け（前月比▲2.0%）は減少基調が継続しているが、減少率は縮小傾向にあり下げ止まりの兆しが見られる。

米国向けは2カ月ぶりに増加した。前月に急減した自動車で反動増が表れた。ただし、金融引き締めによる購買力の低下もあって1月の減少分を補うには至っていない。その他の品目では、半導体等製造装置が全体を大きく押し上げた。米国の「CHIPS および科学法」（CHIPS プラス法）による資金援助を背景に、半導体製造施設の拡充の動きが表れたとみられる。他方、自動車の部材や原動機といった自動車関連財は大幅に減少した。米国では寒波の影響もあって2022年末から自動車工場の稼働率が低下しており、部品の在庫調整が行われた可能性が高い。

EU向けは3カ月連続で減少した。けん引役であった半導体等製造装置で一服の動きが見られた。鉄鋼も全体を押し下げたが、水準は依然として高い。その他の品目では二輪自動車や非鉄金属が押し下げた。他方、自動車が増加し全体を下支えした。

アジア向けは2カ月連続で増加した。半導体等製造装置が増加したほか、中国向けの自動車や非鉄金属、プラスチックなどが全体を大きく押し上げた。ただし、中国向けの半導体等製造装置は大幅に減少した。米国が日蘭に要請した先端半導体関連財の対中輸出規制の影響が表れている可能性がある。

図表5：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注1) OECD景気先行指数 (CLI) はG20ベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

【見通し】徐々に中国向け輸出の回復が本格化か

先行きの輸出数量は、追加利上げに伴う米国の景気減速を主因に減少基調を辿ったのち、中国経済の回復や供給制約の緩和を背景に増加傾向へ転じるとみている。足元では半導体不足の緩和が進んでおり、2月の国内の新車販売台数（輸入車除く、大和総研による季節調整値）は前月比+6.0%と1月（同+7.8%）に続いて高い伸びとなった。海外で積み上がった受注残が消化されることで、自動車などに関しては景気が減速する米欧市場に対しても輸出増が期待できる。

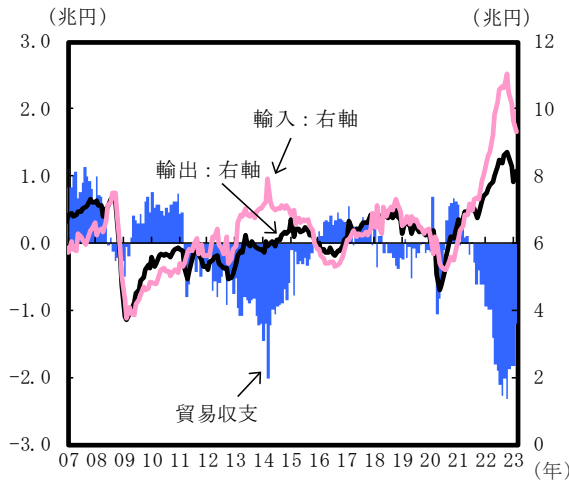
輸出の先行きを地域別に見ると、米国向けは減少基調を辿るとみている。3月7日、8日のパウエルFRB議長の議会証言に見られるように、米国ではターミナルレート（利上げの最終到達点）の上振れが現実味を増している。利上げが進み設備投資や住宅投資が低調となる中、先行きは日本からの資本財や建材輸出に下押し圧力がかかりやすい。他方で米国の2月小売売上高は前月比▲0.4%と、前月（同+3.2%）の大幅増に対して小幅な反動減で踏みとどまった。景気の屋台骨である個人消費は堅調とみられることから、日本からの消費財輸出については一定程度下支えされるだろう。

欧州向けは下げ止まるとみている。欧州では暖冬でエネルギー価格が下落する中でも個人消費が低迷しており、日本からの消費財輸出の回復は当分先となろう。他方、ドイツ企業の景況感指数などに見る企業マインドは改善しつつある。欧州向け輸出の柱である資本財輸出では持ち直しが期待できよう。また欧州では、ロシアに対する禁輸の影響で他国から代替調達を行う動きが継続している。とりわけ強い制裁措置が取られた鉄鋼では、2022年中に日本からの輸出が大きく増加した。ウクライナ問題が長期化する中、先行きも代替調達によって欧州向け輸出が下支えされるだろう。

中国向けは経済正常化の進展に伴い回復に向かう見込みだ。中国では1-2月平均の小売売上高が前年比+3.5%と、「ゼロコロナ」政策の影響が残っていた2022年12月の同▲1.8%から回復に転じた。自動車やPCといった一部の品目は低調だが、全体で見れば消費の持ち直しによって日本からの輸出の回復も徐々に本格化するだろう。他方、先端半導体関連財の対中輸出規制による下振れリスクには引き続き注意が必要だ。

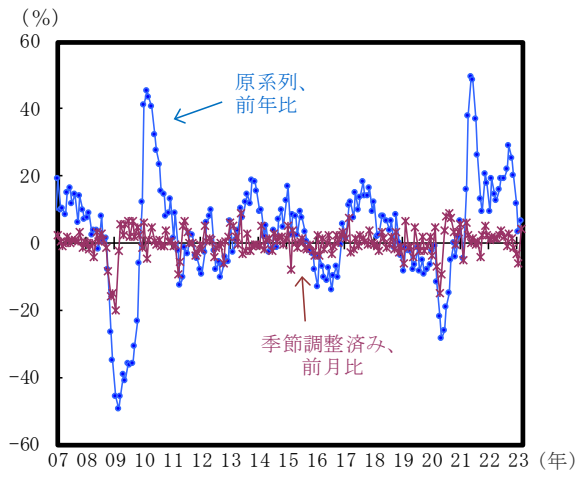
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

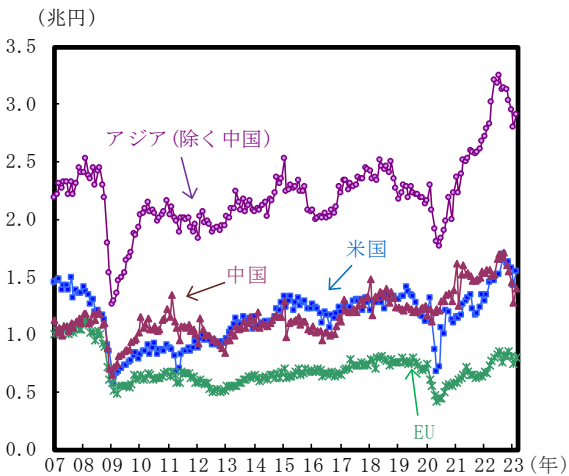


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

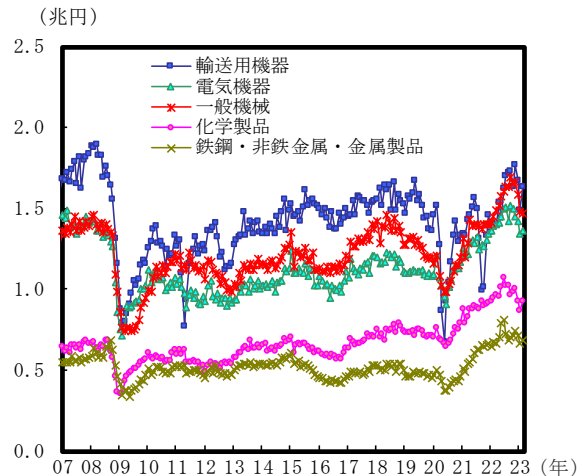


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

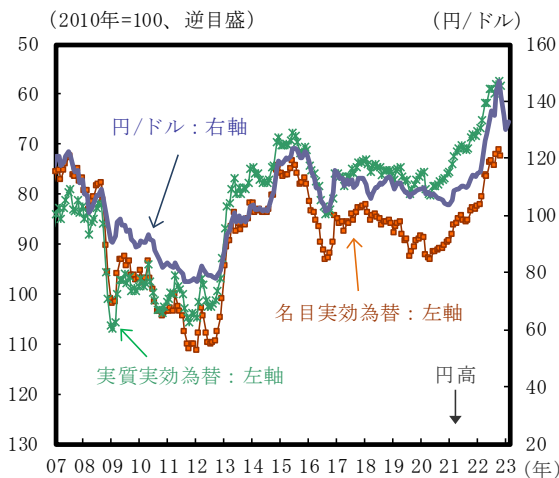


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

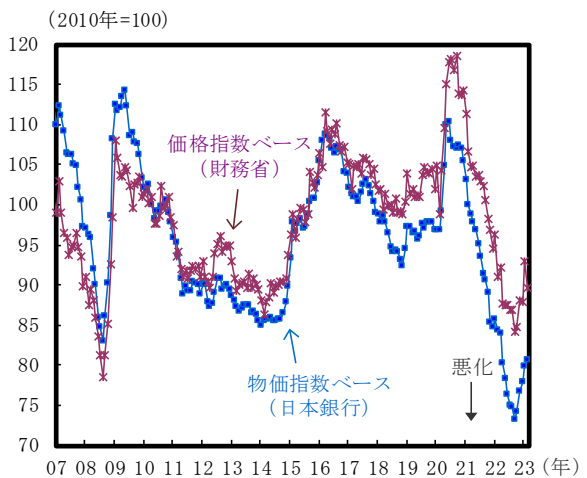


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12	2023/01	2023/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	28.9	25.3	20.0	11.5	3.5	6.5	100.0	6.5
食料品	14.9	16.6	16.1	7.3	▲5.5	18.6	1.2	0.2
原料品	14.3	15.2	13.6	▲0.8	11.4	1.7	1.6	0.0
鉱物性燃料	86.2	76.0	19.9	67.6	17.7	17.2	2.2	0.3
化学製品	4.8	10.0	10.7	1.2	▲6.6	▲2.1	11.7	▲0.3
原料別製品	9.9	12.4	13.5	8.3	4.6	3.0	11.8	0.4
鉄鋼	4.5	7.3	11.0	3.7	5.5	3.0	4.6	0.1
非鉄金属	12.1	18.1	17.6	15.9	0.4	4.5	2.5	0.1
金属製品	10.1	9.5	11.7	3.2	3.1	▲4.0	1.3	▲0.1
一般機械	23.8	17.6	18.9	13.2	4.5	1.4	18.9	0.3
電気機器	19.5	17.9	11.4	6.2	▲1.5	▲1.7	16.3	▲0.3
半導体等電子部品	20.4	20.1	11.4	0.4	0.4	0.5	5.4	0.0
I C	27.8	24.1	12.0	2.0	5.3	5.1	3.8	0.2
映像機器	121.0	108.8	93.6	93.4	▲23.4			
映像記録・再生機器	40.8	31.6	20.3	23.2	▲8.9	2.0	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	7.9	▲15.9	▲14.2	2.6	▲0.5	4.3	0.2	0.0
電気回路等の機器	15.6	16.0	15.9	7.4	▲2.1	▲2.9	2.1	▲0.1
輸送用機器	75.0	61.4	33.8	14.5	9.2	16.1	20.8	3.1
自動車	122.3	81.0	38.3	17.9	14.9	23.5	15.1	3.1
自動車の部分品	12.4	24.5	5.1	3.3	▲13.7	▲11.0	3.4	▲0.5
その他	34.8	29.7	27.1	20.6	6.8	20.0	15.6	2.8
科学光学機器	12.1	18.5	7.3	0.6	▲2.2	6.8	2.5	0.2

米国向け輸出金額 内訳								
	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12	2023/01	2023/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	45.2	36.5	32.6	16.9	10.4	14.9	100.0	14.9
食料品	▲1.3	▲11.0	▲7.6	▲9.0	2.4	6.9	0.9	0.1
原料品	15.6	22.0	14.7	▲13.6	▲29.5	9.4	0.6	0.1
鉱物性燃料	37.2	419.7	▲86.9	▲58.5	▲26.0	▲5.6	0.8	▲0.1
化学製品	29.6	20.7	56.3	13.4	▲2.2	15.1	8.4	1.3
原料別製品	37.6	19.3	30.1	26.7	37.8	24.1	7.1	1.6
鉄鋼	62.5	17.7	80.0	34.5	57.3	51.6	1.8	0.7
非鉄金属	50.3	50.9	37.1	73.1	60.0	37.5	1.0	0.3
金属製品	14.4	8.2	16.4	5.1	26.2	1.2	1.3	0.0
一般機械	30.5	30.6	39.6	23.9	14.0	11.8	24.7	3.0
電気機器	27.6	19.6	14.2	12.4	16.1	6.1	13.5	0.9
半導体等電子部品	31.0	9.0	6.3	7.9	5.9	▲11.5	1.3	▲0.2
I C	68.5	20.9	9.9	4.3	8.7	▲19.0	0.6	▲0.1
映像機器	56.6	29.8	21.3	16.1	▲14.7			
映像記録・再生機器	58.5	38.0	11.9	7.2	▲20.3	▲19.0	0.4	▲0.1
音響・映像機器の部分品	▲30.0	▲52.6	▲52.8	▲12.3	13.1	24.6	0.2	0.0
電気回路等の機器	23.3	19.1	13.2	12.8	12.2	17.9	1.3	0.2
輸送用機器	92.3	68.5	34.6	15.5	1.5	14.1	31.7	4.5
自動車	119.2	78.6	41.1	16.2	▲1.7	13.7	25.3	3.5
自動車の部分品	27.2	31.1	2.6	2.2	5.7	4.7	4.7	0.2
その他	25.7	26.1	29.0	12.0	21.2	33.4	12.4	3.6
科学光学機器	27.1	38.9	39.3	24.5	19.6	31.0	2.8	0.8

EU向け輸出金額 内訳								
	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12	2023/01	2023/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	33.2	28.1	32.0	27.0	9.5	18.6	100.0	18.6
食料品	18.7	▲4.8	▲14.4	▲5.0	▲11.6	54.2	0.7	0.3
原料品	7.5	32.5	▲1.0	33.1	7.2	4.8	1.0	0.1
鉱物性燃料	248.5	101.1	▲38.7	728.0	▲63.1	▲16.3	0.1	▲0.0
化学製品	11.5	11.6	7.3	16.6	3.3	11.0	11.7	1.4
原料別製品	36.7	25.9	61.5	56.4	22.9	17.9	8.2	1.5
鉄鋼	172.5	30.9	208.9	134.0	29.7	23.3	2.5	0.6
非鉄金属	▲5.7	40.7	45.3	79.4	81.1	77.3	1.2	0.6
金属製品	15.2	17.0	15.6	20.5	14.6	5.8	1.3	0.1
一般機械	23.6	17.6	30.5	33.1	17.9	11.1	23.5	2.8
電気機器	14.0	19.8	21.1	24.5	1.8	6.4	16.6	1.2
半導体等電子部品	12.0	27.9	21.2	14.0	▲0.3	4.8	2.3	0.1
I C	11.9	21.5	11.0	13.1	▲2.3	▲9.4	0.9	▲0.1
映像機器	67.6	59.1	64.0	67.5	8.0			
映像記録・再生機器	43.9	23.4	42.0	49.8	▲1.1	10.7	0.7	0.1
音響・映像機器の部分品	▲23.3	▲14.3	▲48.9	44.2	▲40.1	▲28.6	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	17.9	16.8	35.9	32.0	11.8	12.3	1.8	0.2
輸送用機器	97.8	77.5	66.0	21.8	26.6	59.2	24.0	10.6
自動車	194.0	101.7	69.9	16.1	51.2	122.0	16.4	10.7
自動車の部分品	▲6.6	13.0	8.5	0.9	▲37.0	▲22.5	3.7	▲1.3
その他	25.0	14.9	10.6	11.3	▲11.1	5.5	14.2	0.9
科学光学機器	25.3	33.0	26.5	29.3	11.9	12.2	4.2	0.5

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12	2023/01	2023/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	20.6	16.6	11.6	4.1	▲4.0	▲1.3	100.0	▲1.3
食料品	17.4	23.3	22.7	11.6	▲8.7	20.4	1.5	0.3
原料品	14.8	13.1	14.0	▲2.0	15.9	▲0.0	2.4	▲0.0
鉱物性燃料	97.5	30.3	▲9.8	53.8	35.1	▲6.0	2.1	▲0.1
化学製品	1.6	5.1	5.7	▲1.6	▲10.8	▲7.2	15.1	▲1.2
原料別製品	5.7	9.5	7.0	1.2	▲4.3	▲3.4	14.5	▲0.5
鉄鋼	▲2.9	5.5	1.0	▲4.0	0.4	▲6.3	5.8	▲0.4
非鉄金属	11.5	13.1	10.5	7.9	▲11.3	1.0	4.0	0.0
金属製品	8.0	7.4	7.6	▲3.6	▲11.5	▲10.7	1.4	▲0.2
一般機械	19.6	10.6	9.1	3.9	▲3.2	▲4.3	18.0	▲0.8
電気機器	19.1	16.6	9.0	1.2	▲6.8	▲5.4	20.2	▲1.2
半導体等電子部品	20.4	19.8	10.9	▲0.6	▲0.2	1.0	8.9	0.1
I C	26.9	24.2	12.1	1.5	5.4	6.3	6.7	0.4
映像機器	236.7	228.9	197.3	186.3	▲34.6			
映像記録・再生機器	24.7	24.5	13.6	18.7	▲12.7	15.7	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	14.1	▲15.8	0.6	▲5.8	▲10.3	▲1.2	0.2	▲0.0
電気回路等の機器	15.8	14.2	13.8	3.4	▲7.1	▲7.4	2.9	▲0.2
輸送用機器	72.0	48.1	22.0	▲11.9	▲10.8	▲1.0	7.9	▲0.1
自動車	164.0	71.6	24.7	▲22.2	▲7.0	2.0	4.2	0.1
自動車の部分品	13.0	28.9	5.2	▲2.5	▲19.3	▲21.2	2.4	▲0.6
その他	33.5	29.4	25.0	21.3	0.9	14.8	18.1	2.3
科学光学機器	4.0	8.8	▲5.8	▲11.9	▲13.9	▲2.5	2.5	▲0.1

中国向け輸出金額 内訳								
	2022/09	2022/10	2022/11	2022/12	2023/01	2023/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	17.0	7.7	3.5	▲6.2	▲17.1	▲10.9	100.0	▲10.9
食料品	35.4	26.4	43.5	21.8	3.4	33.9	1.2	0.3
原料品	15.5	14.1	40.4	17.6	1.8	0.4	2.9	0.0
鉱物性燃料	65.8	135.3	10.4	103.7	138.2	285.0	1.4	0.9
化学製品	0.0	4.1	7.6	0.4	▲11.0	▲8.6	18.9	▲1.6
原料別製品	3.1	▲0.3	▲2.6	▲6.3	▲17.5	▲16.2	12.2	▲2.1
鉄鋼	▲7.9	2.4	▲11.7	▲11.7	▲12.3	▲28.9	3.2	▲1.2
非鉄金属	8.0	▲10.9	▲8.7	▲5.7	▲25.3	▲8.2	4.1	▲0.3
金属製品	▲0.2	2.7	0.9	▲14.0	▲25.0	▲16.8	1.6	▲0.3
一般機械	14.8	▲3.0	▲3.2	▲7.7	▲16.2	▲11.8	22.9	▲2.7
電気機器	16.5	9.6	2.7	▲2.4	▲16.0	▲12.1	21.2	▲2.6
半導体等電子部品	20.1	8.5	2.2	3.9	▲2.5	1.6	7.6	0.1
I C	26.8	13.3	2.2	10.9	7.9	9.5	5.7	0.4
映像機器	279.0	294.0	204.3	237.3	▲41.0			
映像記録・再生機器	▲1.7	▲7.0	▲11.0	8.5	▲33.6	20.1	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲16.2	▲40.4	▲6.3	▲19.1	▲34.1	▲23.1	0.2	▲0.1
電気回路等の機器	21.1	14.0	10.2	▲5.5	▲15.1	▲15.9	3.3	▲0.6
輸送用機器	92.3	34.3	▲0.9	▲45.7	▲56.4	▲43.5	5.8	▲4.0
自動車	336.8	71.8	11.3	▲50.2	▲52.1	▲34.2	3.9	▲1.8
自動車の部分品	▲9.7	3.0	▲18.8	▲38.1	▲64.5	▲58.1	1.7	▲2.1
その他	20.7	14.6	10.9	3.0	▲8.6	7.8	13.6	0.9
科学光学機器	▲7.8	▲0.2	▲10.6	▲16.8	▲19.0	▲3.0	3.5	▲0.1

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成